



沖原 隆宗

OKIHARA Takamune

三菱UFJフィナンシャル・グループ会長
関経連副会長

日本における 関西の位置づけは 今後どうあるべきか



日本における関西の位置づけはどうか—関西にゆかりの深い企業に身を置く者として常に考えてきました。今年5月の関経連副会長就任を機に、それがあらためて自分の中で大きなテーマとなっています。

まず、国内において今後人口が減少し、経済成長は頭打ちとなっていくことが見込まれる中で、日本が持続的に成長するには、海外の成長地域との一体的な発展をめざすという視点を持つべきです。海外の成長地域とは、2015年には世界最大の地域経済圏になるといわれているアジアです。アジアの成長を日本に取り込むためには、新成長戦略にしっかりと取り組むとともに、法人税率を下げ海外からも投資しやすい環境を整えたり、TPP（環太平洋経済連携協定）やFTA（自由貿易協定）の交渉を進めることが必要でしょう。フェアな競争をしない限り、事業を発展させるのは難しいですし、産業にとってモノが活発に動くことは非常に重要です。制度としては開放し、農業をはじめとする必要なところには支援策を打つというのが順当な進め方ではないでしょうか。

一方、日本が持続的な経済成長を実現していくためには、高コスト構造の一つの要因である「首都圏一極集中」を是正し、首都圏以外に成長ゾーンを広げることも必要です。

さらに、今年3月に発生した東日本大震災の経験を生かし、首都圏以外の地域に、国家や経済のバックアップ機能を構築することも、危機管理の観点から重要です。日本の中でこのような機能を担えるポテンシャルを持つのは、関西においてほかにないでしょう。アジアとの距離が近い一方で東京からは一定の距離があるという地理的な優位性もありますし、今までの歴史や産業の集積もあります。

では具体的に、関西は今後どうあるべきか。私は、①アジアの中核都市としての関西、②新しい日本を牽引する双発エンジンとしての関西、③バックアップ機能としての関西、という3つの側面が求められると思います。

戦後の人口動態を見てみますと、人口の増加は首都圏中心であり、人の増加が経済成長を支えたといっても過言ではないことから、人が集まる関西をめざすべきと考えます。これは私の持論ですが、まずは女性に魅力を感じてもらうことです。関西に住み、子供を育てたいと思ってもらえる仕組みを整備し、“子育て世代に優しい関西”となることがポイントです。また、関西の素晴らしい観光資源を積極的に海外に発信し、“観光客に魅力のある関西”としてインバウンドを呼び込むことも大いに考えられます。留学生や海外の研究者に広く門戸を開放し、“グローバル人材を吸引する関西”という視点を持つことも重要です。

そして、人の往来に不可欠なのが陸・海・空のインフラですが、高速道路にはいまだミッシングリンクがあり、24時間空港である関西国際空港もその能力を十分に発揮しているとは言い難い状況です。リニア中央新幹線（東京～大阪間）の全線一斉開業なども含め、陸・海・空すべてのインフラにおいてさらなる整備が必要です。また、経済特区の設置による優遇税制等の導入も必要です。

以上を実行することで、内外から広く人が集まる関西を実現し、海外の成長地域であるアジアとの一体的な発展に向け、首都圏とともに日本を牽引する双発エンジンとしての位置づけを確立したいですね。私もそのお役に立ちたいと思っています。

（談）